

史料館所蔵史料目録 第69集

信濃国松代真田家中依田家文書目録

(その1)

平成12年 3月

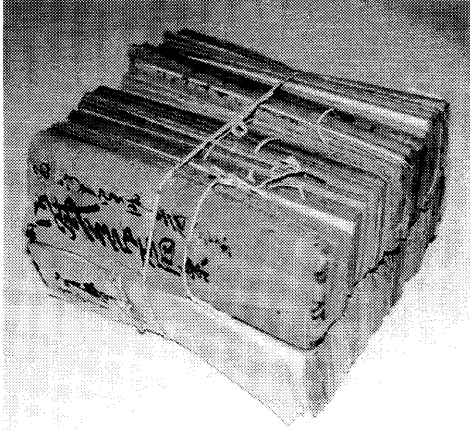
史 料 館

史料館所蔵史料目録 第69集

信濃国松代真田家中依田家文書目録

(その1)

[口絵1-1]



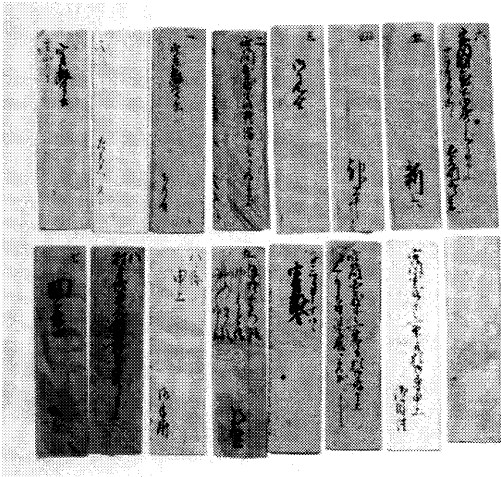
(No.834)

[口絵1-2]



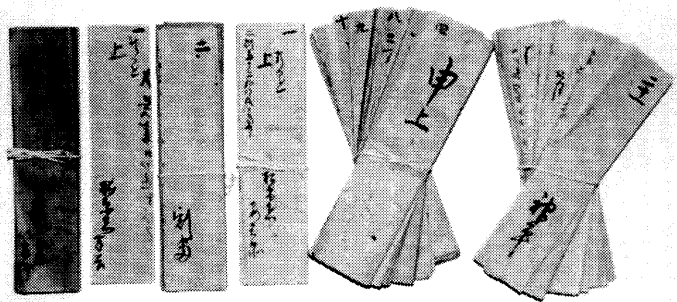
(No.834-1~27)

[口絵1-3]



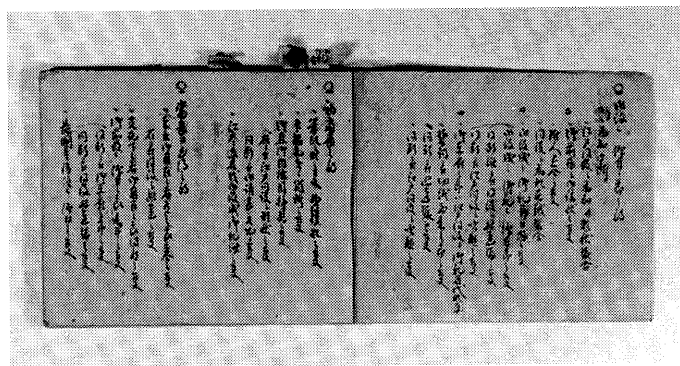
(No.834-1-1~14)

[口絵1-4]



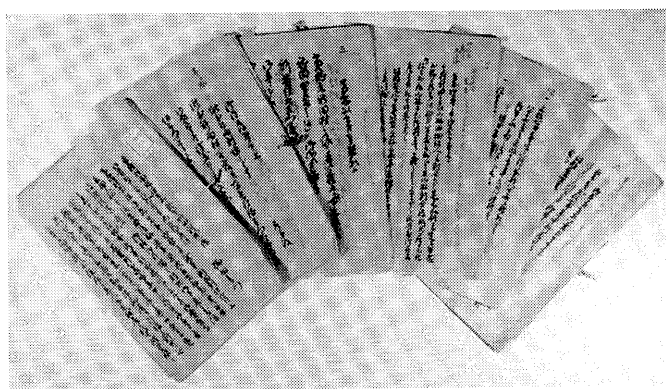
(No.834-13)

[口絵2]

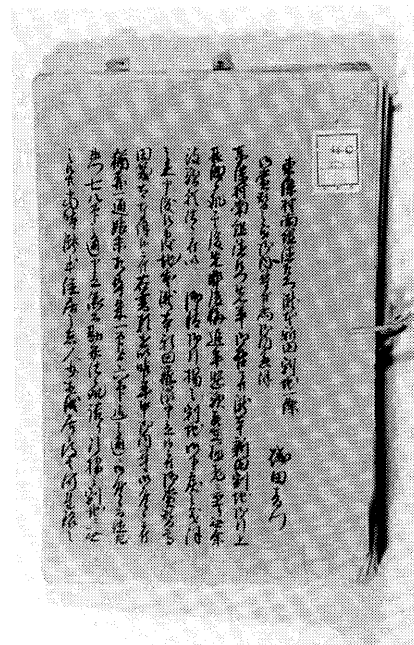


(No.111)

[口絵3]



(No.375)



凡 例

- 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第69集として「信濃国松代真田家中依田家文書目録（その1）」（文書群記号：44C）を収めた。
- 文書群を発生させた組織や集団のあり方に留意し、史料群の内的構造を復元することに努め、その結果をふまえて大・中・小・小々の項目を立てて編成配列した。目録上では各項目の境目に横線を引き区切りを明確にした。また、各項の肩見出に大・中・小の項目を記し、各文書の階層中における位置を把握できるように配慮した。
- 項目中の文書の配列は、原則として年代順とし、年欠文書は末尾に配列した。但し、一括史料で、分割して掲載することが不適当な場合は、史料の配列順に従った。
- 本文記載はほぼ、(1) 表題、(2) 作成者または差出人、(3) 宛名、(4) 作成年月日、(5) 形態・数量、(6) 整理番号の順である。ただし、表題以外の注記（内容補記、紙質、保存状態）は(3) 宛名と(4) 作成年月日の間に記した。
- 表題は原表題のあるものはそれを採り、ないものについては（ ）を付して内容・形態に応じて仮表題を付与した。一括史料は仮名称を付与し、個々の史料は1字下げとして表記した。
- 作成年月日は和年号で示し、干支だけの場合はそれを採録した。推定年次については、（ ）を付した。
- 史料の形態は、冊子型史料では、半（半紙縦折判）、美（美濃縦折判）、横長半（半紙横折判）、横長美（美濃横折判）、横半半折（半紙横折紙半折判）、横半列（半紙横折紙列帖装）などの略称によって原書の大概を示した。こうした表記の詳細については、『史料館所蔵史料目録』第50集の解題を参照されたい。書付型史料は、縦紙、折紙、堅切紙、小紙、縦継紙、横切継紙、巻紙などと表記した。また、絵図類は、縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。さらに綴られた史料の場合は、「24～26合綴・1冊」「紙縫一括」などと、その構成を示した。前者は該当史料が3冊一綴のうちの1冊であることを示し、後者は該当以下の枝番が一括であることを示す。なお、枝番が続く場合は最初の史料にのみ示し、あとは省略した。
- 史料の利用にあたっては、解題を参照されたい。
- 本目録は、山田哲好が担当した。

総 目 次

口 絵

凡 例

総目次

信濃国松代真田家中依田家文書目録（その1）

本文目次	1
解 題	5
1. 依田家文書の伝来と整理の方針	5
2. 依田家の来歴と文書群の概要	6
3. 文書群の構成	12
依田家	
(1) 知行所	12
(2) 役 職	13
(3) 勤 役	18
(4) 規 式	19
(5) 褒 賞	19
(6) 家 政	19
(7) 家計・経営	19
(8) 記録・学芸	20
目録本文	29